

健苗の適期移植で収量・品質向上へスタートダッシュ！

【令和2年水稲最重点技術対策】 目標「気象変動に対応できる適正生育量の確保による品質・収量の向上」

- ① 土づくり資材等の積極的な施用
- ② 品質・収量向上のための品種に応じた適期田植え

1 ほ場準備 ～水不足に備えましょう！～

本年は少雪で水不足発生の懸念があります。ほ場準備から節水、漏水防止に努めましょう！



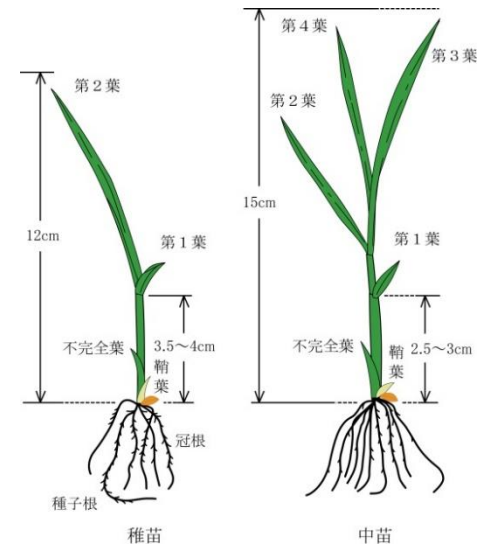
- 畦畔の補修やあぜ塗りをを行い、漏水対策を徹底しましょう。
- 土づくり資材や有機物を積極的に施用し、土壌の保水力を向上させましょう。
- 耕深15cmを目標に耕うん作業を行い、根域の拡大と根の健全な発達を促しましょう。

2 育苗作業計画 ～健苗育成は、適期は種から！～

- つきあかり等の早生品種は生育期間を確保するために、5月10日までに植えましょう。
- コシヒカリは高温登熟を防止するために5月10～31日、晩生品種も5月末までを田植え終了の目標とし、極端な遅植えによる収量低下を防止しましょう。
- 葉齢は、稚苗2.0葉、中苗3.5葉がめやすです(図1)。
- 育苗期間のめやすは、稚苗(加温出芽ハウス育苗)で18日程度、中苗は30日程度です。は種(浸種)が早くなりすぎないように注意し、移植日から逆算して作業計画を立てましょう。(表1)
- は種(浸種)時期が早く、育苗日数が長くなると**老化苗**となり、本田での初期生育不良、生育の後ずれ、**茎数不足**につながります。
- 露地プール育苗は低温での活着が劣るため、平均気温が13℃以上となる4月20日以降のは種とするか、保温効果の高い被覆資材を使用する等の対策を行いましょう。

【表1】 稚苗の育苗スケジュールの例(5月15日移植の場合)

育苗方式	浸種	催芽	は種	出芽	緑化	硬化	移植
加温出芽ハウス	4/15～	4/25～	4/27	4/27～	4/29～	5/2～	5/15
無加温出芽ハウス	4/13～	4/23～	4/25	4/25～	4/29～	5/2～	
加温出芽露地プール	4/13～	4/23～	4/25	4/25～	4/27～	4/30～	



【図1】 規格苗(左:稚苗、右:中苗)

3 種子予措・は種作業

(1) 種子消毒

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病(葉鞘がすじ状に変色し枯れる)、ばか苗病(苗が異常に徒長)などの発生が見られます。
- 温湯消毒の単独処理では、防除効果が十分に得られない場合があるため、微生物農薬との体系防除を実施しましょう。
- 細菌性病害(褐条病や籾枯細菌病、苗立枯性細菌病等)に対しては、種子消毒だけでは十分な効果が得られないことが多いため、体系防除を実施しましょう。

(2) 浸種

- 令和元年産の種子の休眠は、コシヒカリBLは「前年産種子並に深い」と推定されます。
- 浸種には必ず清水を用い、水量は籾容量の2倍程度(種子1kgに対して約3.5リットル)とし、酸素不足を防止しましょう。
- 通常は、水温10℃～15℃で積算水温100℃をめやすとしますが、**休眠が深いと推定されるコシヒカリBLや、休眠が深いことがあるつきあかりについては、水温12℃で積算水温120℃をめやすとし、発芽揃いを良くしましょう。**
- 特に、浸種初日の水温が10℃より低い場合は**発芽不良を起こす場合がある**ので注意しましょう。

(3) 催芽

- 温度は30℃、1～2日をめやすに行います。催芽温度が30℃を超えると細菌性病害が発生しやすくなります。
- 鳩胸状態の籾が80%程度となったら催芽を終了します。

【表2】 一箱当たりのは種量

主な品種	区分	乾籾	催芽籾
コシヒカリ こしいぶき	稚苗	130～140g	160～175g
	中苗	80～100g	100～125g
つきあかり みずほの輝き	稚苗	145～155g	175～190g
	中苗	90～110g	110～135g

(4) は種

- は種量は表2を参考にしてください。厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。

4 緑化・硬化期の管理

(1) 出芽期

- 稚苗で加温出芽の場合、30℃、2～3日 で出芽長が0.5～1.0cmになれば出芽は完了です。中苗の場合は30℃、1～2日 で出芽長が0.5cm未満がめやすです。出芽長が長すぎるとその後も徒長しやすく病害にも弱くなるため注意が必要です。

(2) 緑化期

- 出芽直後の苗は、急激な気温の変化や強い光に弱く、緑化には弱い光が適しています。被覆資材で遮光するとともに、日中は20～25℃になるように管理します。10℃以下になると伸長が止まるので、低温時は二重被覆するなど保温管理に努めましょう。
- ハウス内が25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうな時は、換気を行いヤケ苗の発生を防止しましょう。
- 第1葉の葉鞘の長さが稚苗で3.5～4.0cm、中苗で2.5～3.0cmになったら被覆資材をはがし、緑化を終了します。
- プール育苗の場合、緑化が終了し被覆資材をはがす、葉齢1～1.2葉期頃になったら湛水を開始します。

(3) 硬化期

- 除覆後は、日中はハウスを開放し、苗を徐々に外気にならしていきます。
- 日中は15～20℃をめやすに管理します。晴天時にはハウス内がすぐに高温になるため早めに換気を行います。
- かん水は、硬化前半は1日1回程度、後半は乾燥程度を見ながら1日2回、午後2時頃までに行います。移植1週間前からは、夜間もハウスを開放しますが、ムレ苗を防ぐため8℃以下にならないよう管理しましょう。